第十号

いろいろな人たちと話し合い、問題点を

安心とうるおいの下町「川の手」をめざして

防災まちづくり瓦版

発行／一寺言問を防災のまちにする会

昭和62年4月1日

隅田川の流れ（オートスライド「もっと・防災まちづくり・したい！」から）

計画案の検討作業進む

路地尊の実物モデル設置決定

「一寺言問の防災まちづくり計画（案）」におおむね賛成、これに沿って防災まちづくりをすすめてほしい、――という声が、町会役員会や瓦版の取材、あるいは前号のアンケートなどを通じ、一言会に寄せられている。一言会理事会はそれを受けて、〈計画の内容〉について意見を出しあい、修正する点や更に盛り込む内容などについてまとめている。今後その修正案を各構成団体で検討し、四月中に決定して区長に提出する予定だ。

路地尊（防災設備付情報板）のモデルの設置が決まった。場所は東向島三丁目の大和湯前。ちょうど白髭神社と向島百花園を結ぶ道沿いにあることから、多くの人に見てもらえるものと思われる。一言会では、今後地区内各地の、人が多く集まる場所や、建て替えや緑化などに関してルールをつくっていこうとする路地などに、この路地尊を置いていきたい、としている。

東向島一丁目20番地にある高田製菓跡地（約三百坪、現在未利用地）を防災広場用地として確保したい。この土地は、一寺小と言問小という二つの防災活動拠点を結ぶ線上にあり、一寺言問の道の整備用地にもなる。また周辺が木造密集地域になっているため、防災上の効果も大きいものと思われる。是非とも早く入手したい。

墨堤通りに桜を植樹するには、桜の生育に充分な空間が必要であ[illegible]大規模な敷地を持って[illegible]未組（日本[illegible]（オープンスペース）が増[illegible]

防災まちづくり計画案

一寺言問で

出た意見

あれこれ

堺の生垣化、間切りなどは簡単にみえるが、実際におこなうとなると難しい。こういうひとつひとつの積み重ねがまちを安全にしていくのだから、積極的に防災対策を図った人たちを表彰していくようにしよう。

土地、建物に関する制度などを通じて広くPRしていくと共に、地区内に住む専門家（不動産鑑定士や設計士など）の協力を得て相談会を開いていったらどうだろうか。

地蔵坂通りは、防災活動拠点（一寺小）と主要避難道路（水戸街道、墨堤通り）を結ぶ道路になるもの災害時には重要な道路になるものと思われる。しかし通過車両が多くて歩きにくく、災害が発生するとかもっと危険な状態になるものとンクリート舗装面を少なく[illegible]

これが、路地尊だ！

路地尊（ろじそん）とは、高さ二・二m、幅一m、奥行三十七cmのストリート・ファニチャー（路上設備）。かつての防火水槽や行燈を連想するデザインで、上部が防災まちづくりの情報板。下部は収納庫になっていて、消火器の他、ホーキ、チリトリ、ホースが収められている。

「大和湯」のご主人 伊藤義憲さん

「路地尊は、わいわい会の世話人である方から何の世話人でもない。以前は消火器だけだ、たのでいましたけだ、たのでいました。以前は消火器だけだ、たのでいました。以前は消火器だけだ、たのでいました。以前は消火器だ